

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	
施設名	北九州芸術劇場	
内定額	5,592	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		360	359
年間事業本数（※1）	主催事業	24	22
	公演事業	13	7
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	3	5
	（内、本助成対象事業本数）	0	4
	普及啓発事業	6	8
	（内、本助成対象事業本数）	4	5
	その他 内容：自治体の受託事業	2	2
貸館日数	ホールごとの貸館日数	429	447
	ホール名：大ホール 座席数：1,269	152	170
	ホール名：中劇場 座席数：700	164	136
	ホール名：小劇場 座席数：96～216	113	141
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	14,566	20,378
	公演事業	6,299	12,228
	人材養成事業	359	1,581
	普及啓発事業	3,581	2,024
	その他 内容：自治体の受託事業	4,327	4,545
	貸館事業入場者・参加者数	108,817	122,730
	その他 内容：共催・提携公演	4,265	8,752
	計	127,648	151,860
施設の利用率(%)		72.0%	72.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	13	33	6,299	74.4%	11		2				
	共催・提携公演(※2)	12	31	4,265	83.8%	8		4				
	貸館公演(※3)	249	338	108,817	63.8%	25	98	28	1	10	4	83
	計	274	402	119,381								
令和6年度	主催公演(※1)	9	27	12,922	92.4%	6		3				
	共催・提携公演(※2)	10	32	8,752	90.9%	8		1	1			
	貸館公演(※3)	282	355	122,730	68.5%	38	117	22	2	9	9	85
	計	301	414	144,404								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①: 創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	①人材育成事業への応募数(定員充実度)…申込数 ②育成対象者のプログラム実施後の反応…アンケート ③講師陣による事業内容に関する評価…インタビュー・フィードバック	①4事業中2事業が定員数を上回る ②「舞台芸術への興味が高まった」「自身の活動の専門性がより高まった」などの回答が80%以上 ③高評価を得る(前向きな発言など)	①3事業が定員数を上回る ②アンケート調査を行った3事業の平均で74%が回答 ③人-01,02,04について、講師陣にヒアリングを実施。全体的に一定の評価を得ることができた。	①人材育成事業のうち、参加募集を行った3事業(人-01,02,04)すべてにおいて、定員数を上回る応募があった。 ②アンケート調査、3事業中2事業で目標値を下回った。 人-01「高校生のための演劇塾」では定員超過のため、第一希望の内容ではない講座の受講となった生徒がおり、こうした点が結果に影響したものと考えている。一方で「舞台芸術への興味が高まった」との回答が100%に達した事業もあり、一定の成果を得られた。そのほか、参加者同士のディスカッションやコミュニケーションを望む声も聞かれ、専門性を高めながら同じ志を持った仲間との更なる交流の場づくりの必要性を感じた。 ③事業後のフィードバックでは、「劇場として育成事業に取り組んでいくことはとても有意義なこと」「若い世代に特化したワークショップ等が全国的に減っている中、舞台芸術としっかり向き合うことができる事業で若年層を発掘しており、北九州の舞台芸術界の未来は明るいと感じた。」等の意見を講師陣からいただいた。次世代の表現者育成を積極的かつ継続的に行うことで、未来を担う若者たちの更なる発掘に繋げていきたい。		
普及啓発事業	①他者への理解度(異文化理解等)…アンケート ②参加者の満足度…アンケート ③アウトリーチ事業における関係団体の評価…アンケート	①「人間関係に広がり生まれた」の回答が80%以上 ②「満足した」の回答が80%以上 ③「またやりたい」「効果があった」などの回答が80%以上	①アンケート調査を行った2事業の平均で85%が回答 ②アンケート調査を行った5事業の平均で93%が回答 ③普-01,03について、平均98%が回答	①2事業全7プログラムにおける各アンケートで「人間関係に広がり生まれた」と回答した割合を見ると、普-02人×劇場「キタキューブ」 シニア向け88%、一般向け82%、若者向け85% 普-03ひとまち+アーツ協働事業 留学生対象100%、図書館協働92% の5プログラムで目標値に達した。特に外国人留学生を対象としたプログラムは市民センターを、図書館協働プログラムは図書館を会場として実施したことで、地域住民との交流が促進された。 ②5事業における各アンケートで、「満足した」と回答した割合を見ると、普-02人×劇場「キタキューブ」親子向け及び若者向けプログラム、普-03留学生対象プログラムが100%の回答結果を得た。いずれも児童とその保護者、学生等、舞台芸術に触れる機会が多くない対象であり、アーティストとの出会いやはじめての体験を楽しんでいたものと受け止めている。また、普-01キタQアーティストふれあいプログラムでは、参加した児童生徒の91%が「満足した」と回答している。一方で、北九州芸術劇場への来場経験がないとの回答割合も高く、アウトリーチにより舞台芸術を届ける活動の必要性を再認識している。 ③普-01キタQアーティストふれあいプログラムの教職員アンケートで97%、普-03ひとまち+アーツ協働事業の協働先関係者アンケートで100%の高い回答率であった。相手方への丁寧なヒアリングで課題等を抽出、アーティストを交えた協議により、実施対象者に最適なプログラム提供ができた結果と受け止めている。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◎人-01「高校生のための演劇塾」 講座を通じて育まれた関係性は、講師を務めた地元表現者が参加した生徒へアドバイスを続けるなど、事業終了後も絶えることがなく、講師が演出する演劇作品に生徒が出演するなど双方の活動に広がりが生まれている。地域で継続的に活動している表現者と次世代を担う若者が、共に作品づくりを行う機会の提供や環境整備を当該事業が担うことで、地域での表現者育成の循環が生み出されている。
◎人-02「キタゲキスクール」 全国から優れたアーティストを講師陣に迎え充実したプログラムを企画し、北九州地域であまり取り組めていない若い世代に特化した事業を実施した。 スクール参加者と地域の表現者、劇場スタッフが一丸となり創り上げた演劇作品(創作・成果発表)では、よりクオリティの高い作品を目指し、参加者が主体的に稽古を重ねるなど、熱量の高い創作体験となった。 当日券の販売数は想定を超え30枚に達するなど、観客や地域住民からの注目度の高さも伺えた(観客アンケート「本日の公演内容」満足度100%)。 当該事業を通じて出会った仲間とともに、演劇ユニットを立ち上げる若者や、テクニカルワークや制作業務など舞台芸術に関わる仕事を希望する若者が生まれたことは、地域の芸術文化を担う次世代の人材育成はもとより、周辺地域を牽引することにつながり、大きな成果となったと考えている。
◎普-04「大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編」 作品性とターゲットの客層にマッチする地元のデザイナーを選定し、デザインの企画段階から細かく調整を重ねてチラシとポストカードを作成。イラストやデザイン含め、明るくやさしいタッチが好評で、平日開催ではあったものの入場率は7割を超えることができた。 また、当初は通訳なしでの上演を予定していたが、1公演目の来場者の反応から、北九州では通訳があった方がより観客に伝わりやすいと感じたため、2公演目以降は通訳をつけて上演することをカンパニーに提案し、実行した。 結果、作品への理解がより深まったのか子どもたちの反応が大きくなり、会場の一体感が増した。
◎普-05音楽劇「死んだかいぞく」 夏休み期間中の平日開催であったことから、市内の学童保育へ団体案内を行い、子どもたちに劇場空間での演劇鑑賞体験を提供することができた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①海外を拠点とする実演芸術作品の招聘…事業数 ②ワークショッププログラムへ参加した在住外国人の反応…アンケートとフィードバック	①2事業(普-04含む) ②企画意図に即したポジティブな感想	①普-04及び公演事業(助成対象外)の2事業を実施 ②普-03の留学生対象プログラムの参加者を対象にアンケートを実施。13名の参加者全員から回答をいただき(回答率100%)、企画意図に即した評価を得ることができた。	①海外を拠点とする実演芸術作品として、普-04大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編ーを実施。また、助成対象ではないが、当劇場とこれまで共同制作の実績があるダンスカンパニー「山海塾」(フランス・日本)のレパートリー公演を実施し、世界水準の舞台芸術作品の鑑賞機会を創出した。 ②アンケート回答より「この活動に参加したら、多くの友達ができるし日本語を勉強するチャンスもある。次回参加できる機会を楽しみにしている」「人や地域との繋がりが深まるように感じた」等の感想を得た。芸術文化を通じて国籍を超えたコミュニケーションが生まれ、外国人と地域住民が互いの存在を知りながら新たな関係性の構築につながった。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◎普-03「ひとまち＋アーツ協働事業」 外国人留学生と地域住民との交流事業では、生まれた国や年齢も異なる人々が、まち歩きやお互いの文化を紹介し合う時間を経て、演劇・ダンスを用いた作品創作を行う複数回のプログラムを実施した。 地域住民の憩いや学び、様々な活躍の場としてより地域との距離が近い市民センターの特性を活かした「日本食づくりワークショップ」では、高齢者が外国人留学生へ玉子焼きの作り方を教えるなど、国籍に捉われないばかりか、祖父母と孫を思わせる世代間交流にも繋がった。 参加者同士の距離が近づいたことで、参加者が自主的にグループで集合写真を撮るなど、なごやかな光景が見られた。 アンケートでは、やさしい日本語を使用し、ワークショップを体験した留学生の生の声を拾うことができた。
◎普-04「大人も一緒に 子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編」 沖縄で開催される国際舞台芸術フェスティバル「リっかりっかフェスタ」と連携し、地域の実情やニーズに合わせた招聘作品の選定や調整などを行っている。 劇場HPIに公演の英語翻訳ページを作成、SNSでも英語による発信を行った。あわせて、作成したポストカードを空港や観光案内所、在住外国人も足を運ぶ子ども向け店舗やアミューズメント施設などに設置した。
◎山海塾(対象外公演) 日本発祥のコンテンポラリーダンスである舞踏を市内在住の外国籍の方にも知っていただくため、これまでの事業でも繋がりのあるYMCA学院、JICAへ案内を行った。 効果は限定的であったが、今後も取り組みは続けたい。 また、劇場HPIに公演の英語翻訳ページを作成し、SNSでも英語による発信を実施した。令和6年度の国内上演は当劇場のみの貴重な鑑賞機会であることを打ち出した広報を行った。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ 市民等の文化芸術活動、公演等をより良いものとするために、積極的にアドバイス・協力・支援等を行っている ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①地域コミュニティの創生状況…アンケート	①「人間関係に広がりが生まれた」の回答が80%以上	①アンケート調査を行った5事業の平均で84%の回答	①5事業9プログラムのうち、7プログラムで80%を上回った。中でも人-02「キタゲキスクール」と普-03「ひとまち＋アーツ協働プログラム(留学生参加プログラム)」では100%に達した。生活圏内で新たな仲間と出会う機会を創出することができ、さらに複数回実施した中期プログラムを通して、関係性を深めることにもつながったと考えられる。 目標の80%に達しなかった2プログラム(人-04「地域コーディネーター育成プログラム」67%、普-02「人×劇場 キタキューブ(親子対象ワークショップ)」50%)も、「他の参加者に刺激を受けた」との声があり、一定の効果が見られた。		
②新たな気付きの創出…アンケート	②「人生に対する考え方、物事の味方、価値観が変わった」の回答が80%以上	②アンケート調査を行った5事業の平均で53%の回答を得た。	②5事業9プログラムのうち5プログラムで80%を上回ったものの、3プログラムが顕著に低く(人-01「高校生のための演劇塾(戯曲講座)」33%、人-04「地域コーディネーター育成プログラム」44%、普-03「ひとまち＋アーツ協働プログラム」33%)、全体を押し下げる結果となった。これは、参加者が既に芸術文化活動に関わっている、或いは芸術文化が人や社会に様々な効果をもたらすとの認識を持ち、知識や技術の向上が参加動機であったためと考えられる。 一方で、回答が80%を超えたプログラムの対象者は若者～シニアと幅広く、新たな気付きを得るのに世代で大きな違いはなかった。参加者の前向きな気付きが、それぞれの今後プラスの変化をもたらし、今後の参加意欲や活動の拡がりにつながることが期待できる。		
③会員制度入会者数…会員登録数	③有料会員は定員枠100%充足、無料会員は前年度より増	③有料会員は定員枠100%充足(定員600名に対し604名)、無料会員は前年度から13,665名増(例年は約4,000名で推移)	③有料会員は4月～翌年3月の1年度の有期で、例年1月下旬から翌年度会員の募集告知を開始している。新年度ラインアップ公表前にも関わらず早々に募集定員に達することから、北九州芸術劇場のラインナップへの信頼を寄せる固有のファンを一定数確保している(令和6年度から7年度に向けた継続率は64.2%)。また令和6年度は、無料会員が急増した。日本を代表するカンパニー作品の上演(現代演劇/助成対象外)が要因として考えられるが、当館の認知度が飛躍的に向上かつ広域に拡大した(県外在住者前年度比＋4,898人)。この機会を逃さず、新たな固定客の定着を図る取組みが必要。		
④貸館利用者の満足度…アンケート	④満足層(「とても満足」「まあ満足)」の回答が95%以上	④令和6年度貸館利用者の97.7%が回答	④北九州芸術劇場の貸館事業は、それぞれに特色ある3劇場の機能を最大限に活かせる舞台技術の支援、利用開始前の事務手続きから当日の運営までをワンストップでサポートする体制で、開館当初から満足度が高い。現場で得られる知見やノウハウを施設職員間で共有し、一人ひとりの能力向上を図るとともに、自主事業運営の経験を市民利用時に還元する循環を生み出すことで、高い満足度が維持できていると考えられる。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◎普-03「ひとまち＋アーツ協働事業」 プログラムのひとつである八幡図書館連携事業は、知の拠点である図書館と文化芸術の拠点である北九州芸術劇場が、互いのビジョンを共有し、中長期的に実施している事業である。 北九州市の歴史を元に生まれた戯曲を声に出して読む講座では、当時の時代背景を知りながら戯曲を読み解く過程で、参加者自身が地元地域への愛着を深める機会となった。 実施回数を重ねる中で、次第に活発な意見交換が行われ、全員で発表を目指すことができた。 舞台芸術の特性でもある、他者と一緒にモノづくりを行う体験を深めたことで、参加者同士のコミュニケーションが活性化し、地域のコミュニティの再生の一助となったと考える。
◎普-04「大人も一緒に 子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編」、普-05音楽劇「死んだかいぞく」 子ども向けの2作品においては、普-04では主に2～6歳の未就学児を、普-05ではかつて原作の絵本を読んでいた小学生を中心に、年齢設定を意識して企画・実施しており、子どもたちが、作品鑑賞に適するタイミングで舞台芸術に出会い、楽しむ機会を提供できた。 また、普-05では、夏休み期間中の平日開催ということを利用して、北九州市内の学童保育への団体案内を広く行い、子どもたちが初めて演劇専用劇場に足を運ぶ機会を創出することができた。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①参加型事業(学校アウトリーチ事業除く)における29歳以下の参加者数…申込数	①全参加者数の30%以上	①全参加者の65%を占める	①30%目標値から65%の実績と大幅に上回り、大きな成果を上げることができた。一方で、広く一般的に募集したプログラムでは、若者の参加が多いとは言えず、今後も若者世代を対象とした事業を継続的に実施することで、若者が芸術文化に親しみを覚え、ひいては劇場に定期的に足を運び活動が定着する機会を増やしていき、若者の北九州からの流出を防ぐ一助となりたい。		
②参加型事業(学校アウトリーチ事業除く)における60代以上の参加者数…申込数	②全参加者数の20%以上	②全参加者の38%を占める	②高齢化率が著しく高い地域性から、高齢者の心身の健康維持や生きがいとなりうる芸術文化活動の需要は高い。また北九州芸術劇場としても高齢者の社会参加を課題と認識していることから、シニア向けプログラムを企画・実施し、参加型事業の参加者に占める60歳以上の参加率の目標を達成した。シニア向けプログラムを除いても、人-04地域コーディネーター育成プログラム及び普-02人×劇場「キタキューブ」一般向けダンスプログラムを除き、目標値を達成することができた。		
③劇場外施設でのプログラム会場数	③5か所以上	③14か所で実施	③14か所で実施 施設外活動を目指して大きく上回って実施することができた。プログラムを進める中で、協働相手との信頼関係に基づく連携・協力を得られたことが大きい。		
④アクセシビリティ研修の実施	④全スタッフの70%以上が受講	④全スタッフの89%が受講	④全スタッフの89%が受講 財団所属の職員だけでなく、同じ施設運営業務に携わる委託スタッフや登録レセプションистも対象に実施。車椅子体験や高齢者疑似体験を通して当事者目線でのバリアフリーチェックを行うとともに、対応を学びアクセシビリティ・ホスピタリティ向上に取り組んだ。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◎普-01「キタQアーティストふれあいプログラム」 普段劇場に足を運ぶ機会の少ない子ども達へ舞台芸術の力を届ける普及活動が続けており、教育格差や貧困層など経済的格差等が社会問題化する中、教育現場と協力し誰しもが芸術文化を享受する環境を整えている。 対象を小中学校・特別支援学校としており、障害のある人も芸術文化にふれ、楽しみ、深めることができる社会づくりの一助を担っている。 近年、特に特別支援学校からのリポート率は高く、「普段の教育現場では見られない豊かな表情が見れた」「コミュニケーションが苦手な生徒が自分から進んでコミュニケーションを取りに行っていた」等の声が寄せられている。
◎普-02「人×劇場『キタキューブ』」 各プログラムの対象を、シニア世代・高校生・親子・広く一般など多様な主体に設定し、演劇・ダンスのワークショップ及び講座を実施した。 "ゆりかごから墓場まで"に象徴されるように、生涯を通じて芸術文化に触れることができる機会をつくり、それを実践できたことは、公共施設としての役割を果たしていると捉えている。 シニア世代を対象としたプログラムでは、定員に対して応募数が大きく上回り、ニーズや期待値の高さが伺えた。 参加者からは「よく笑い・よく話し・よく動き、頭の運動にもなった」「変化のない日常に刺激がもたらえた」等の声も聞かれ、イキイキした表情で帰っていく参加者の様子が印象的だった。
◎普-04「大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編」 普段は稽古場として使用している場所を公演会場として実施。会場設営、観客導線、演出についてなど、デンマーク人のアーティストと日本人劇場スタッフが、英語での会話を重ねながら調整を進め、本番を迎えた。 舞台上にちりばめられた楽器やおもちゃなどの小さなオブジェは、来場者が間近で観察することができ、食い入るように見つめる子どもや、親子で語り合う姿などが見られた。 終演後には、会場出口につながる帰り道にある石のオブジェに、直接触れることができる「あそびのじかん」を設定。 子どもたちは出演者と一緒に歌をうたうなどし、鑑賞だけでなく、アーティストやスタッフとの触れ合いを楽しみながら作品世界を全身で味わってもらうことができた。 公演アンケートでは、「語り、オブジェ、音楽、映像どれもこれまで経験したことのないものだった」「海外のアーティストの作品に触れることができ、子どもに良い刺激となった」といった声をいただいた。
◎普-05音楽劇「死んだかいぞく」 有料入場者の約4割が子どもであり、「子どもと両親と3世代で来ました」「子どもにとって人生初の観劇になりました」など、ファミリー層から大変好評を博した。 「子どもの多い観劇は新鮮」「子どもの気配に包まれて豊かな時間を過ごせました」「子どもたちが楽しそうで癒されました」など、“子どもと一緒に観劇する”ことへの大人たちからの好意的な感想も寄せられた。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	・事業コンセプトや企画意図に合致した各種助成制度の検討 ・外部資金獲得に向け組織体制を強化	・視野を拡げ各種助成制度へ応募、活用 ・令和7年度から文化事業の協働による地元金融機関等との連携を予定	・事業コンセプトや企画意図に合致する各種助成制度を選定、応募。 ・文化事業の協働について、地元金融機関等と協議を複数回にわたり実施。	北九州国際音楽祭事業においては、地元企業の特別協賛を令和6年度も継続して獲得したほか、他団体が実施する助成事業にリサイタル公演を応募するなど、多様な財源の確保に取り組んだ。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	・有料会員の継続率73.7%	・有料会員の継続率を維持 ・若年層の固定客としての取込みを検討	・令和7年度有料会員のうち、前年度からの継続率は64.2% ・令和6年度会員の40歳未満の若年層は全体の24.9%(令和5年度比+1.6%)	令和7年度に向けては前年度からの継続率が64.2%に低下したが、受付開始当日に募集定員に達したことから、新規会員の増が令和6年度事業の反響の結果と前向きに解釈している。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	当財団が管理運営する施設間の人事交流、広報及び技術部門の連携、会員制度や券売システムの統合運用による効率化を実施	現状の取組の継続、充実を検討	当財団が管理運営する施設間の有機的な取組を継続したほか、劇場・音楽堂等運営に係る情報交換会や研修事業に参加。自主公演事業では他劇場と連携し事業運営にあたった。	施設管理及び事業運営の現場担当者間の交流に積極的に加わり、職員の資質・能力向上に取り組んだ。自主事業においては、制作・広報面で密に連携することで、効率的かつ効果的な事業運営を行うことが出来た。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	財団管理職、係長級に北九州市職員の派遣を受け、密な意思疎通により施設運営・事業実施の財源を確保	現状の取組を継続、人脈を生かし文化部以外の部局とのネットワーク構築を図る	財団管理職、係長級に北九州市職員の派遣を受け、密な意思疎通と、文化部以外の部局とのネットワーク構築を実施。	設置者との密な連携により、令和7年度から新たな指定管理者として指定を受ける。所管部局との協議を重ね、安定的な施設運営の人材及び財源確保に努めた。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	配置している	現状を維持	配置した	今後も継続する		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	配置している	現状を維持	配置した	今後も継続する		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続する		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	令和6年度女性管理職 財団全体で40.0% (北九州芸術劇場のみ33.3%)	現状を維持	令和6年度女性管理職 財団全体で40.0% (北九州芸術劇場のみ33.3%)	管理職候補の育成に取り組んでいる		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	実施している	現状を維持	実施した	制度を整備するとともに、随時所属長面接等を実施し、職員の就労状況の把握に努めている		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		

4. 総評

・ 団体の自己評価

【ミッション及びビジョンを踏まえた振り返り】
令和6年度は北九州芸術劇場のミッションやビジョンを踏まえた事業計画に則り、概ね当初の予定通りに実施できた。北九州市の課題と捉えている「若者世代の市外流出」と「急速に進む高齢化」に対し、人材養成事業（未来の芸術文化を担う若い世代を対象としたプログラム）及び普及啓発事業（高齢者の生きがいをづくりやコミュニティ再編に資するプログラム）を通して、対象をあえて限定し直接的な働きかけを行った。一過性で終わらない工夫によって参加者間の関係性が深まり、参加者の意識変化や事業終了後の活動の発展が見られるなど、大きな手応えとなった。
一方で、調整が難航し実施に至らなかった企画もある。人材養成事業として計画した市内公共ホールとの連携事業、普及啓発事業として計画した市内就労支援施設との協働事業は、指定管理期間に伴う事情等が影響し実現できなかった。しかしながら、従前からの各施設との連携・協働実績に基づく企画内容であり、いずれも地域の芸術文化振興や課題解決に有意義と考えていることから、引き続き働きかけていきたい。

【創造性・企画性について】
北九州芸術劇場が開館時からミッションのもとに取り組んできた創造事業では、北九州を拠点としながら、日本各地で芸術文化活動を行う人材が育まれている。そうした地域のアーティストを人材養成事業・普及啓発事業に積極的に起用することで、アーティスト自身の成長と、参加者とアーティストが同じ目線で地域や未来を語り合える関係性の構築がなされている（人-01「高校生のための演劇塾」）。アーティストと共に創造過程を経験することは、ひいては後進育成につながるものと考えている。創造事業において、テーマを地域の歴史や日常に見出すことによって、芸術文化に親しむとともに地域への愛着が育まれる効果も期待できる。また、全国を舞台に創造活動を行っているアーティストを招聘するプログラムでは、地元の人材にアシスタントを担ってもらうことで、ファシリテーターとして間近で学ぶ機会を創出できた。
公演事業では、舞台芸術の第一線で活躍しているアーティストや作品を多く招聘し、高い水準で芸術性を維持している。現代演劇やダンスの最前線で活躍する演出家やカンパニーによる作品を多彩にラインアップし、舞台芸術の魅力を発信し続けている。出演アーティストによるダンス指導や創造体験ワークショップ等を、公演と併せて企画・実施することで、芸術文化の普及にも取り組んだ。普-05「死んだかいぞく」では、公演関連企画として、本作の音楽を担当する田中馨氏による子ども向けワークショップを実施した。自主事業では演劇やダンスを中心とする当劇場にとって、音楽のワークショップは珍しいため、演劇作品に初めて触れる参加者と出会う機会となるとともに、ワークショップから作品鑑賞の一連の流れをつくり、演劇への興味喚起につなげることができた。（公演事業及び普-05ワークショップは助成対象外）
令和6年度に開始した人材養成事業02「キタゲキスクール」では、俳優、演出家、舞台技術者、劇場運営など、舞台芸術作品の実施に係る様々な視点から体系的に学ぶという、これまでにあまり類を見ない充実した内容で実施できた。舞台芸術の創造の現場に携わる専門家を講師に招くことができ、講座の様子をSNS等で段階を追って発信した効果もあり、受講生による発表公演チケットは想定を上回る販売数となった。また、発表公演鑑賞者のアンケートで「自分も参加してみたい」などの感想が多数寄せられるなど反響もあった。北九州芸術劇場は、高等学校演劇部を対象とする人材育成事業に長年取り組んでいるが（人-01「高校生のための演劇塾」）、卒業以降の活動の場が充分でないことがこれまでの課題であった。若い世代が活動を継続し、専門性を習得できる環境整備に大きな役割を果たしたものと受け止めている。

【国際性について】
令和6年度は、国内作品だけでなく海外作品の招聘（普-04「大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編」）や、海外を舞台に活動するカンパニーの作品（助成対象外）の上演に取り組んだ。海外作品の招聘は、国際社会に生きる子どもたちをはじめとする若い世代に、国際交流と相互理解を深める貴重な機会として需要が高く、継続実施の必要性を感じている。さらに、インバウンドや就労外国人の増加という地域コミュニティの変容に伴い、普及啓発事業として在住外国人との交流に取り組んだほか（普-03「ひとまち＋アーツ協働事業」のうち留学生を対象としたプログラム）、劇場HPやSNS等の英語での情報発信も進めた。

【地域文化拠点機能について】
北九州芸術劇場はビジョンとして「地域文化の拠点」を掲げ、劇場が行う事業を軸としながらも、将来的には事業に参画した市民・協働団体等が、それぞれ主体的に行動できることを念頭に、中長期的な目線で事業を計画・実施している。令和6年度は、芸術文化事業がもたらす様々なプラスの効果の認知を拡げることや、他の専門分野と連携して地域課題の解決に臨む取組みとして、人-04「地域コーディネーター育成プログラム」を実施した。募集開始早々に想定を超える応募があり、地域の需要が高かったことを再認識できた。参加者は、地域貢献を志す方、課題や困難を乗り越えるために新たな視点を求める方、アーティストとして活動の場や可能性を上げたいと考える方など様々で、ワークショップ体験やアウトリーチ事例の講習・現場視察後には、属性や社会環境が全く異なる参加者による熱を帯びた意見交換が続いた。事後のアンケートでは「他の参加者に刺激を受けた」「学びを実践したい」との積極的な意見が見られ、事業の趣旨・目的を達成するものとなった。日程や所要時間が、一部参加者には充分でなかったとの感想もあったため、今後検討したい。
また、北九州芸術劇場では貸館事業にも力を入れている（事業コンセプト「支える」）。特に市民利用では、徹底した安全管理のもと、利用者のイメージをプロフェッショナルな立場で具現化する「提案する劇場」として、市民の思いに寄り添った運営を行っている。結果、利用者の満足度は開館当初から高い水準で維持され、リピート率も高い。

【多様性とアクセシビリティについて】
令和6年度は、事業の実施対象を明確にしてプログラムを実施した。特に力を入れたのは子どもたちをはじめとする若い世代と、高齢者である。公演として実施した普-04「大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2024ー海外編」、普-05「音楽劇『死んだかいぞく』」では、ファミリー層をターゲットにした広報展開や親子セット券の設定、市内学童保育との連携により、多くの子どもたちに舞台芸術作品に触れてもらうことができた。
長年継続している学校アウトリーチ（普-01「キタQアーティストふれあいプログラム」）も当初予定の8校から10校へ、児童生徒の参加延人数も目標値を100名程度上回って実施することができた。当劇場のアウトリーチは、学校、アーティスト、劇場職員の3者協議や現地視察を含めた事前調査を重ね、各学校が抱える課題を共有し、改善のきっかけとなるようプログラムの調整を行うことに特徴がある。実施時間も2時限分（45分または50分×2回）を確保しており、実施校教員アンケートでは、プログラムの前後で児童生徒の変化を実感している旨の回答をいただいた。
普-03「ひとまち＋アーツ協働事業」では、市内図書館を会場に地域の歴史を素材にした演劇ワークショップを実施し、高齢者と若者の世代間交流の場ともなった。人-03「まちの記憶×劇作家養成事業」は、劇作家育成が主たる事業目的であるものの、芸術文化活動を行う若者が、地域を題材にした創造の過程で、高齢者をはじめとする地域住民との交流が生まれ、劇場との関わりがなかった対象にも着実に芸術文化の広がりを見せている。
小中学生や高齢者は、自ら劇場に足を運ぶことが難しく、芸術文化に触れる機会が限られている。地域の中で事業を実施し直接届けること、また、事業を継続することの必要性を強く感じている。

・ 所見